

# 生きて働く力を育む国語教室

坂綾・東部中 出水 あずさ

## 1 授業実践

(1) 題材名 万葉・古今・新古今

(2) 題材について

- ① 三大和歌集と評される「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」は、奈良、平安、鎌倉のそれぞれの時代における代表的な和歌集として名高い。奈良時代を代表する「万葉集」は自然や人間に対する愛情を素直にかつ力強く歌いあげた和歌が多く収録されている。対して平安時代の「古今和歌集」や鎌倉時代の「新古今和歌集」には、情趣的な美を重んじ、繊細・優美で細やかに詠み込まれた和歌が多く収録されている。これらを比較することによって、それぞれの時代において好まれた歌について知ることができる。本単元に身に付けさせたい力は、学習指導要領「C 読むこと」ウ「文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること」ならびに「(3) 我が国の言語文化に関する事項」ア「歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと」である。作者の立場や歴史的背景を想像することによって、和歌に込められた心情や描かれた情景を読み取る力を伸ばすために適切な題材である。
- ② 本学級の生徒は、級友と意見を交換することで理解を深められている様子が見られる。事前のアンケート結果では、「短い詩の内容の読み取りが得意である」という質問に対して全体の約60%（18名）の生徒が否定的に回答した。短い文字数の中にある世界の広がりや、技法や語句を手がかりに想像して捉えることが苦手な生徒が多いと考えられる。一方、「複数のものを比較し、論じることが得意であ

る」という質問に対し、全体の約63%（19名）の生徒が肯定的に回答した。このことから、複数の歌を比較し、その違いから内容や特色に迫るといった方法が効果的であると考えられる。生徒は1学期に学習した「俳句五首」で、短い歌の中に凝らされた工夫を読み取り、場面を想像するという活動を行っている。俳句に詠まれた情景をイラストで表したり、作者の心情をせりふの形で記述したりすることで、限られた手がかりから、作者が表現したかったものへ迫った。俳句の学習で学んだことをふまえ、和歌の世界に親しむ姿勢を身に付けられるものとする。

- ③ 指導にあたって以下の点に留意する。
  - ・ 古典に親しみやすくするため、和歌を現代語に訳す際には、昔の人々と今の人々のものの考え方を比較し、現代と似たところがあることに気付かせる。
  - ・ 万葉集の時代に持統天皇の詠んだ「天の香具山」の歌と、藤原定家によって改作された「天の香具山」の歌とを比較し、特徴を比較する活動を通して、時代ごとに好まれた和歌の傾向に気付かせる。
- (3) 学習目標
  - ① 似た二つの和歌を比較し、それぞれの和歌集の特徴に気付くことができる。
  - ② 和歌の表現をもとに、作者の心情や情景を想像し、鑑賞文にまとめられる。
  - ③ 和歌に使われている言葉に注目し、表現の仕方について評価することができる。
- (4) 学習指導計画
  - ① 二つの和歌を読み比べ、時代による和歌の特色を捉える。・・・1時間（本時）
  - ② 三つの歌集を読み味わい、作者の心情や情景を捉える。・・・3時間
  - ③ 和歌の意味や技法に注意して、鑑賞文をまとめる。・・・1時間
  - ④ 鑑賞文を相互評価する。・・・1時間

(5) 本時の学習指導

① 目標

- ・ 二つの「天の香具山」の和歌を比較する活動を通して、それぞれの和歌集に用いられている表現の特徴に気付くことができる。
- ・ 和歌の違いから、時代ごとに好まれた和歌の特色を理解することができる。

② 学習指導過程 (◎共に学び 共に高め合うための工夫)

学習内容・学習活動	予想される生徒の反応	指導・支援と留意点 合理的配慮
1 和歌二首を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ よく似た和歌だな。</li> <li>・ 言葉が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入として、知っている和歌を想起させる。</li> </ul>
<p>二つの「天の香具山」の和歌の違いは何だろう。</p>		
<p>2 二つの和歌を比べ、異なる点の確認をする。</p> <p>3 二つの和歌を比べ、それぞれの和歌から受ける印象の違いをまとめる。</p> <p>(1) 各自でワークシートに記入する。</p> <p>(2) 班ごとに意見交流しホワイトボードにまとめる。</p> <p>(3) 全体で交流する。</p> <p>4 和歌の背景について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作者</li> <li>・ 作られた時代</li> <li>・ 出典</li> </ul> <p>5 時代ごとに好まれた和歌の傾向が異なることを理解する。</p> <p>6 本時を振り返り、次時の内容について知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「来るらし」は、来たらしいという意味かな。</li> <li>・ Bの方は「来にけらし」と「干すてふ」という意味だろう。</li> <li>・ Aの「干したり」から、目の前で衣が揺れている様子が浮かぶ。</li> <li>・ Bは人から聞いているなら衣は実際に干してないのかもしれない。</li> <li>・ 小倉百人一首なら聞いたことがある。</li> <li>・ BはAをもとに作られたから「らし」と書かれているんだな。</li> <li>・ 作られた時代が違えば、人々の好みも異なるのだとわかった。</li> <li>・ 時代背景も考えて他の和歌を鑑賞したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 二つの和歌の異なる部分をペンで囲み、明示する。</li> <li>・ 意味を想像することが難しい語には説明を加える。</li> <li>・ それぞれの和歌の特徴に気付かせるため、意見を述べる際には明確な根拠を示すように助言する。</li> <li>◎ よい意見は◎という記号を付けて書き足すよう指示する。</li> <li>◎ ホワイトボードの意見をペンの色によって分類し比較することで二つの和歌の違いに気付かせる。</li> <li>・ 和歌の背景に興味をもたせるために、作者の性別や作られた時代を予想させる。</li> <li>・ Bの和歌が改作されたものであることを押さえ、表現の違いに注目するよう助言する。</li> <li>・ AとBの和歌に立ち返り、時代ごとの特色が表れていることを確認する。</li> <li>・ 次時は、Aと同じ万葉集の和歌について学習することを告げ、見通しを持たせる。</li> </ul>

③ 評価

- ・ それぞれの和歌の特徴に気付き、そこから受ける印象の違いをワークシートに記入することができたか。
- ・ 時代によって好まれる和歌が異なることや、藤原定家が改作した「天の香具山」の和歌は鎌倉時代の流行に合わせて手を加えられたものであることを、ワークシートの感想または振り返りシートに記入することができたか。

2 成果と課題

和歌を提示した際に、細かな語句の違いに着目することが難しい様子だったが、着眼点を示し、解説を加えると、描かれた情景の違いや表現の差に気付ける生徒が多かった。生徒にとって馴染みのない語句に出会った折、すでに持っている知識とどのように結び付けるかを、日々の授業の中で反復練習する必要性を感じた。今後も研究と実践を重ねていきたい。

